



コスモス

NO.43

校訓：支え合い 学び合い たくましく
学校教育目標

「ふるさとを愛し 志をもって
チャレンジする人を育てる」

オリンピック競泳日本代表 松本弥生さん「夢の教室」(5年生)

「夢の教室」は、日本サッカー協会の「こころのプロジェクト」として行われているものです。様々な競技の現役選手や元選手が「夢先生」として登壇し、「夢をもつことや、その夢に向かって努力することの大切さ」などを伝えてくれるものです。そこで、**子どもたちが「夢や志」をもってチャレンジしてほしいと願って**応募したところ当選し、今回は5年生で行いました。

夢先生は『松本弥生』さん、元競泳選手です。2012年ロンドン、2016年のリオデジャネイロのオリンピックに出場し、ロンドン・リオともに400m自由形リレーで決勝に進出し、リオでは8位に入賞した、日本トップクラスの競泳（自由形短距離）選手だった方です。

5時間目は体育館でゲームを行いました。まずは「だるまさんが転んだ」。普通のやり方とは違って、アシスタントの人がボールを投げ投げ上げている間だけ進めるゲームでした。簡単そうですが、フェイントに見事に引っかかり、ゴールラインまで全員が到達することがなかなかできません。その度に「やよちゃん（松本さんをみんなでこう呼びました）」と作戦を立てました。そして最後には、「**全員で手をつないで、速さを合わせて**」みんなでゴールラインを目指し、見事に全員がゴールラインを突破しました。「鬼ごっこ」では、やよちゃんを5年生みんなで守る作戦を立て、鬼（アシスタントの方）からやよちゃんを守り切ることに成功しました。2つのゲームを通じて、**チームとしての作戦を遂行することを通して、子どもたちはチームワークの大切さを学びました。**すばらしい成長が見られました。

6時間目は教室で、「オリンピック出場」という夢を叶えるまでの話を聞いて学びました。

5歳から水泳を始めたやよちゃん。水泳が楽しくて、大好きだったそうです。しかし、大きくなり選手コースに入り週6日間練習するようになると、友達といっしょに過ごすことができなくなり、さみしい気持ちが強くなり、その原因である水泳が嫌になったそうです。月に2日しか練習しない時期もあったそうです。そんな苦しい時にコーチからかけられた、

「**将来必ず日本で表彰台に立てるから。**」「**がんばり過ぎなくていいよ。**」

という言葉に心が晴れたそうです。コーチ、家族、友達、先生等、周りの人の支えはとても大きいと感じたそうです。

自分に厳しくするために練習が厳しい高校に入り、高1ではインターハイ予選敗退だったのが、高2では優勝。しかし、高3では3位になり、スランプになり、北京オリンピックには出られなかったそうです。コーチにつらい気持ちを話すと、

「**『本当にオリンピックに出る』と思った人がオリンピックに行ける。『出られたらいいな』じゃダメだ。**」

と言われたそうです。夢を叶えるためには、強く強く強く思って行動に移さないと叶わないということなのでしょう。

その後は、1日に20000m（20km）！！泳いだそうです。その結果、2010年日本一、2011年日本一、そして、2012年にはロンドンオリンピック出場を果たしました。そして、2016年にはリオオリンピックに出場し、400mリレーで日本チームの8位入賞に貢献したのです。

「**夢をもってがんばっていれば、コーチや友達、家族や先生など、助けてくれる人が必ずいる。自分も誰かを助ける人になれる。だから、夢をもってがんばってほしい。**」

と、話してくれました。

5年生の子どもたちも、自分の夢や、自分が好きなこと、伸ばしたいことを考え、書き、離しました。「プロのサッカー選手になりたい」「自衛隊員になって人を助けたい」「サッカー選手になりたい」「絵を描くのが好き」「バレーボール選手になって勝ちたい」「（お菓子会社）で働きたい」「水泳選手になりたい」・・・としっかりと語る姿はとても頼もしかったです。

やよちゃん、夢先生、松本弥生先生、ありがとうございました。そして、今回の夢の教室で自分の夢を確かめた5年生の子どもたちが、松本弥生さんのように、迷ったり、苦しんだりしながらも、自分の夢に向かって努力してくれることを期待し、応援しています。夢を叶えようと強く思い、でも、**がんばり過ぎずに進んでほしい**と願っています。

